

地域の子どもは地域で育てる こどもわくわく広場

毎月第2、第4土曜日には、公民館が子どもたちの明るい声であふれます。

「こんにちは、先生」。

「おねえさん、また会えたね」。

子どもたちに「いろいろな体験をさせたい」「休日の居場所を作ってあげたい」という願いから、8年前に立ち上がったのがこの地域子ども教室「わくわく広場」です。

はじめは少ない講座でしたが、今は25講座もあります。料理や工作、将棋や囲碁もあれば、詩吟や琴、またペタンクや身体を使って遊ぶ講座もあり、同じ講座を続けて受講する子、いろいろな種類の講座を選ぶ子と子どもたちが自分で選びます。

わくわく広場の講座では、活動はもちろんですが、「あいさつ」も大切にしています。

スタッフの皆さんは、必ず声かけをされ、返事が返ってこないときはもう一度声をかけるようにしています。

「おはようございます」。

「お願いします」。

「ありがとうございました」。

講座の始めと終わりに必ずあいさつをする。そのうちに、自分から進んであいさつをしたり、笑顔で話せるようになったりする子が増えます。

こうした多くの講座を支えてくださるのは、100人近い地域のボランティアの方々です。中学生・高校生・大学生ボランティアの皆さんも活躍します。

小学生の頃に「わくわく広場」に来ていた子が、中学生になって、小さい子の世話をしてくれたり、付き添いで見学に来ていたお母さんたちが、スタッフを手伝ってくださったりと、子どもたちをとりまく方々の輪は年々広がりつつあります。



お菓子作りを手伝う中学生ボランティア

スタッフの皆さんは、子どもたちの笑顔と、「楽しかった。ありがとう」。

「また、来たいな。こんどはこれをやりたいな」。

そんな子どもたちの言葉一つ一つに支えられ、元気ももらい活動が続いているのです。

こうした多くのスタッフが、地域で子どもたちに出会ったときも、「わくわくの先生、こんにちは」とあいさつし、「この前、楽しかったね」と会話もはずみます。

子どもたちは多くの地域の方々と顔見知りになることで、多くの目に見守られ、安心して過ごすことができるのです。

この「わくわく広場」を通して地域の子どもは地域の大人で育て守ります。

私たち地域の大人も、子どもたちと同じように、安心して安全な、そしてあいさつのとびかう明るいまちづくりをめざしていきたいものです。

寝たきり老人の方を激励

町老人クラブ連合会



会員宅を訪問する女性部の皆さん

8月1日町老人クラブ連合会女性部役員さんが、寝たきり会員がいる単位老人クラブ会長を訪ねお見舞いの品を届けました。

お見舞いの品を預かった各会長さんは、早速町内の女性部の皆さんと一緒に、寝たきり会員のご家庭を訪問し、介護をされているご家族の日ごろの労をねぎらうとともに、「暑い日が続きますがお体を大切にしてください」と励ましのことばをかけお見舞いの品を渡しました。